

新青丸研究航海報告

東京大学大気海洋研究所

- * 航海番号 KS-16-12 次研究航海

- * 観測海域 (和文) 三陸沖合
 (英文) Offshore of Sanriku (Northwestern Pacific)

- * 航海期間 平成28年 8月21日 (日) ~平成28年 8月31日 (水)

- * 出港日時・場所 8月21日14時 JAMSTEC 横須賀本部岸壁

- * 入港日時・場所 8月31日13時青森港

- * 寄港期間・場所 なし

- * 航海の研究題目 (和文) 乱流計・水中グライダーを用いた夏季東北海域における親潮系冷水からの栄養塩拡散過程の観測 (震災対応)
 (英文) Observations on nutrient diffusion processes from Oyashio cold water during summer in the Tohoku ocean area using microstructure profilers and gliders.

- * 主席研究員 (氏名・所属・職名・e-mail アドレス◎は◎)
 伊藤進一・東京大学大気海洋研究所・教授・goito@aori.u-tokyo.ac.jp
- * 研究内容, 主調査者 (e-mail アドレス), 観測項目
 1. 気象擾乱が引き起こす海洋上層の近慣性周期内部波の散逸過程
 Eric Kunze (kunze@nwra.com), 高解像度水温計付き電磁流速計フロート
 2. 気象擾乱が引き起こす慣性振動流の把握
 井上龍一郎 (rinoue@jamstec.go.jp), 海面ドリフター
 3. 親潮系冷水周辺域のサブメソスケール構造に伴う乱流混合過程の把握
 田中雄大 (tanaka-t@aori.u-tokyo.ac.jp), 乱流計, CTD 搭載型微細水温・流速センサー
 4. 混合過程による栄養塩拡散輸送の実態把握
 伊藤進一 (goito@aori.u-tokyo.ac.jp), CTD 搭載型栄養塩センサー, 栄養塩採水分析, 溶存酸素採水分析, 塩分採水分析
 5. 親潮系冷水周辺域のサブメソスケール構造と動物プランクトン分布との対応把握
 高橋一生 (akazutak@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp), Auto-Visual Plankton Recorder (Aout-VPR), NORPAC ネット

* 乗船研究者氏名・所属・職名

伊藤 進一・東京大学大気海洋研究所・教授

高橋 一生・東京大学農学生命科学研究科・准教授

柳本 大吾・東京大学大気海洋研究所・助教

田中 雄大・東京大学大気海洋研究所・特任研究員

横井 孝暁・東京大学大気海洋研究所・特任研究員

後藤 恭敬・東京大学大気海洋研究所・大学院生（博士2年）

辻 英将・東京大学大気海洋研究所・大学院生（修士2年）

郭 晨颖・東京大学大気海洋研究所・大学院生（修士1年）

石川 和雄・東京大学大気海洋研究所・大学院生（修士1年）

川崎 睦実・東海大学大学院海洋学研究科・大学院生（修士1年）

井上 龍一郎・海洋研究開発機構・主任研究員

KUNZE Eric・東京大学大気海洋研究所・外国人研究員（Northwest Research Associates・上席研究員）

LIEN Ren-Chieh・東京大学大気海洋研究所・外国人研究員（University of Washington・上席研究員）

SNYDER Avery・University of Washington・技術員

中野幸彦・マリンワークジャパン・観測技術員

* 航跡・測点図

